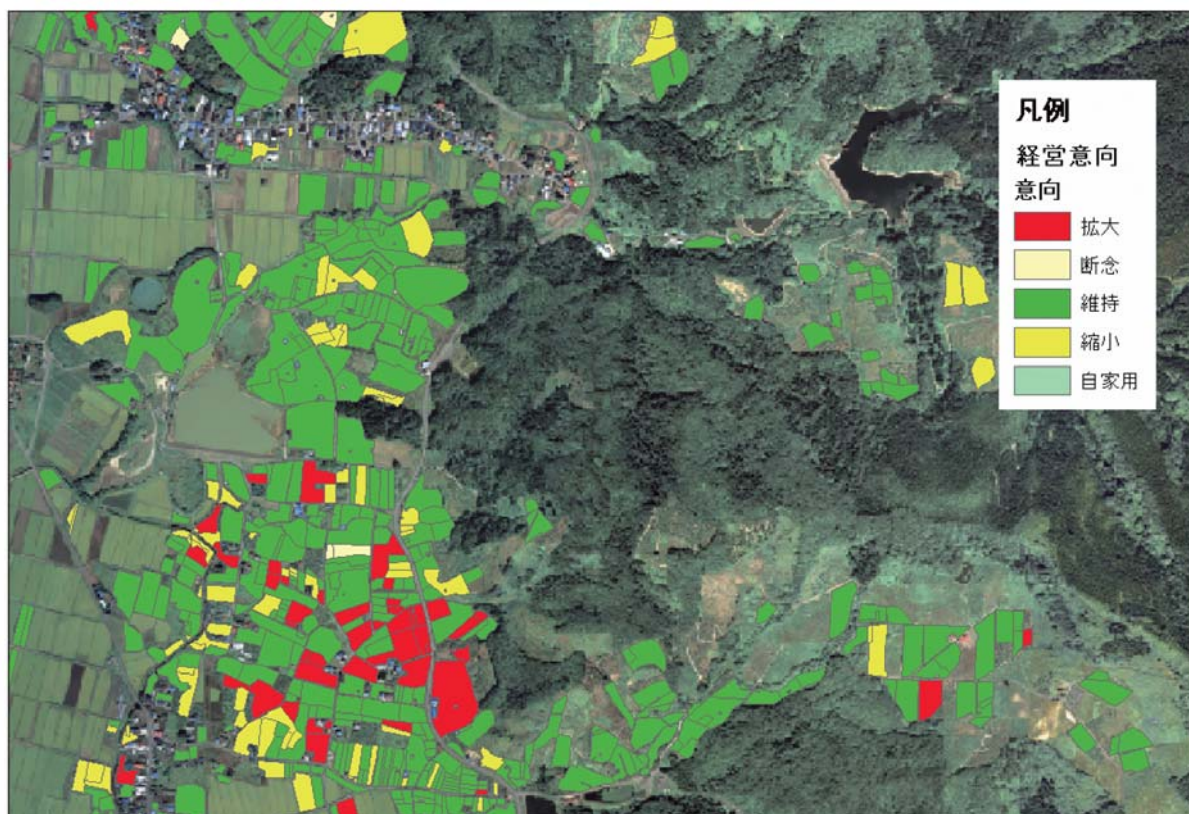


期待される効果

- ①果樹のブランド化の推進や廃園地対策を検討する基礎データとして使用する。
- ②新規就農者への園地の照会や園地の集積、流動化に向けた計画のシミュレーションが容易に可能となる。



農家の経営意向状況を整理

今後の活用予定

現在整備している情報に加え、共同防除組織に係る情報を追加して、平成24年度中に水土里情報システムを利用して関係機関と情報共有する予定。

■お問い合わせ先

秋田県土地改良事業団体連合会(水土里情報センター室)

018-888-2732(直通)

大潟土地改良区

設立40周年記念式典



11月16日(金)、大潟土地改良区の設立40周年記念式典が、大潟村のサンルーラル大潟で、農林水産省東北農政局次長を始め、県、村、土地改良区の関係者など、約130名が出席して挙行された。

式典は、後藤理事長の式辞に続き、五十嵐東北農政局長(代読：山本東北農政局次長)を始め、高橋大潟村長等の来賓祝辞などと続いた。

また、黒瀬前大潟村長に、同土地改良区の発展への貢献に対する感謝状贈呈も行われ、式典は盛会裡のうちに終了した。

同土地改良区は、「世紀の大干拓事業」によって造成された「新生の大地」を受益地とする、我が国でも最大規模の土地改良区として昭和48年に設立され、以来、幾多の障害を乗り越えて「県営土地改良総合整備事業」、「県営排水対策特別事業」等を実施しながら、ほ場条件の改善と、水稻や畑作物の生産力向上に努めてきた。また、干拓事業後、半世紀近くがたち、経年劣化による老朽化が懸念される基幹水利施設についても、各種事業への取組により、更新整備や補修が進められており、今後とも「日本の食料基地」としての農業を根幹から支える組織として、一層の発展が期待されている。



事業竣工

■ 県営「銅屋地区」経営体育成基盤整備事業

10月20日(土)、県営「銅屋地区」経営体育成基盤整備事業の竣工式が秋田市相川(相川コミュニティーセンター)で、県や市、土地改良区、基盤整備組合の関係者など約50名が出席して行われた。

- ・事業期間 H16～H24
- ・総事業費 1,990百万円
- ・事業量 区画整理A=179.9ha、暗渠排水A=178.2ha、農道整備20.9km
- ・負担団体 雄和中央土地改良区(理事長：伊藤錚悦)

■ 県営「左手子地区」農地集積加速化基盤整備事業

11月17日(土)、県営左手子地区農地集積加速化基盤整備事業の竣工式が秋田市雄和(ふるさと温泉ユアス)で、県や市、土地改良区の関係者など約50名が出席して行われた。

- ・事業期間 H18～H23
- ・総事業費 590百万円
- ・事業量 区画整理・暗渠排水A=44.5ha、農道整備7.5km
- ・負担団体 左手子土地改良区(理事長：佐々木良英)

■ 県営「鶯野地区」農地集積加速化基盤整備事業

11月27日(火)、県営鶯野地区農地集積加速化基盤整備事業の竣工式が、大仙市(大曲エンパイヤホテル)で、県、市、土地改良区の関係者など約80名が出席して行われた。

- ・事業期間 H19～H24
- ・総事業費 1,860百万円
- ・事業量 用排水路工91.9km、暗渠排水A=15.6ha
- ・負担団体 大仙市鶯野土地改良区(理事長：富岡弘)

第2回秋田県地域伝統芸能大会

—— 県内の伝統芸能が一堂に会して ——



第2回秋田県地域伝統芸能大会が、11月10日(土)～11日(日)の両日、大仙市中仙市民会館(ドンパル)で開かれた。

大会は、県内の伝統芸能を広く紹介し、次世代に保存継承していくための普及に努めるだけでなく、伝統文化を育んだ農村の歴史や先人の生き方を学ぶとともに、結いの精神の復活による農村振興の可能性について地域ぐるみで取り組むことにより、地域の活性化も

めざしていこうとする有志や愛好者でつくる実行委員会(実行委員長高橋康信)が主催し、仙北地域の2市1町の行政と教育委員会の協賛と、秋田県・秋田県教育委員会・水土里ネット秋田などの後援を得て開催され、2年目となった。

今年は、県内各地の神楽保存会のメンバーによる番楽・ささら・獅子舞や、民謡同好会による民謡・手踊りなどが披露され、客席から手拍子と盛んな拍手が送られていたほか、岩手県陸前高田市の方々との交流プログラムが設けられるなど、各地に根差した伝統芸能を通じての交流も深められた。

このような日々の伝承活動から、農村集落での世代を超えた人間の交わりが生まれ、地域コミュニティの絆の強化や地域農業の担い手づくりにもつながってきていることなど、伝統文化継承活動による様々な波及効果も紹介されていた。



「平成24年秋の叙勲」受章者発表

平成24年秋の叙勲受章者が、11月3日に発表されました。本会の関係者として次の方が受章されました。

加藤氏は、昭和53年に土地改良区の理事に就任、平成2年からは理事長として各種土地改良事業の推進や土地改良区の組織運営基盤の強化を図ってきたほか、平成4年からは旧協和町議会議員を4年間務め、さらには平成17年から大仙市農業委員として、広く地域農業の振興、発展に貢献していることが認められての受章となりました。誠にありがとうございます。



◆旭日単光章(土地改良事業功労)

加藤 久孝

- ・大仙市協和土地改良区理事長
- ・本会仙北支部運営委員
- ・大仙市農業委員
- ・元本会監事(H16.4.1～H21.3.31)

第135回秋田県種苗交換会・参考展示

「農業農村整備フェア」を開催!!



秋田県農業の祭典「秋田県種苗交換会」が今年度は能代市を会場に10月31日～11月6日まで開催された。期間中、本会は東北農政局(西奥羽土地改良調査管理事務所、平鹿平野農業水利事業所、田沢二期農業水利事業所)、秋田県(農地整備課、農山村振興課、山本地域振興局農村整備課)、秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会等の関係団体と協力・連携し、共催行事として「農業農村整備フェア」を開催した。

農業農村整備フェアは、一般の方々を中心に、農業・農村が持つ魅力や大切さを知ってもらい、併せて農業農村整備事業の啓発普及並びに円滑な推進を行うための広報活動と位置付け、関係団体に呼びかけ長期に渡り継続開催されている。

期間中、約8,000人の来場者が訪れましたが、展示ブース内では、関係団体が一丸となって、各種農業農村整備事業に関連したパネルや「グリーン・ツーリズムの取組」、「農業農村整備のはたらき」、「耕作放棄地を活用した『あきた体験農園』の活動状況」等に関するパネル展示のほか、毎年好評の「顔写真入り農村風景カレンダーの作成」や「農業農村に関するアンケート・相談コーナー」などを実施し、展示ブースを一体的に活用した広報活動を行うことができた。



2012語り部交流会inあきた

～農業農村から学ぶ自然との共生の精神(こころ)～



10月20日(土)、にかほ市平沢の「にかほ市総合福祉交流センター(スマイル)」で、「2012語り部交流会inあきた」(主催:秋田県、共催:あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議、協力:平野啓子、後援:農林水産省東北農政局、にかほ市、にかほ市教育委員会、水土里ネット秋田)が開催され、県内外から約260名の参加があった。

この語り部交流会は、身近にある農業や農村に関する歴史や文化の継承を語り、伝えることで、昔から受け継がれてきた農村に宿る共生の精神を再認識し、それを将来につなげていこうというもので、平野啓子さん(語り部・かたりすと)と農林水産省、秋田県の三者の協同により、昨年から全国に先駆けて実施されている。

今回は、「農業農村から学ぶ自然との共生の精神」をテーマに、鳥海山麓一帯における農地や疏水の歴史、その開拓に尽力した郷土の先人の足跡、農村伝統文化などを見つめ直すことにより、その共生の精神を地域活力の向上や農村振興につなげていくことができないかを考えるという趣旨のもとに行われた。

交流会では、菅原県山本地域振興局長による講演や、横山にかほ市長らによる語りフォーラムの開催、地元の伝統芸能「小滝番楽」が披露されたほか、平野啓子さんの語りには、地元の平沢小学校の児童5名が登場し「齊藤宇一郎翁」の紙芝居と一緒に朗読するなど、地域一体となったの交流が行われた。

